

季節を詠む、  
時流を詠む

四季の歌

美野里短歌クラブ

サクサクと梨の食感爽やかに今年も味わい夏は過ぎゆく  
没頭し何かに向うその時に無我となり行く千日紅燃ゆ  
孫達が八年前に釣ってきた金魚はまだ元気に泳ぐ  
「会いたいね」電話のたびに言いし友望みかなわず静かに逝けり  
喜びを語り合うより悲しみに耐えよと励ます友よ頼もし

小川短歌会

悦びや哀しみにつけ顕ちくるは慈しみくれし母のおもかげ  
霞浦近くわがふるさとの思い出はただなつかしき筑波山見る  
瘦せぎすの体ボルダリングに励みたれば上腕二頭筋いよよ逞し  
方言で語る民話のほっこりと古民家に聞くうなずきながら

玉里短歌会

吾が庭の蜜柑わずかに色づきぬ見上げる妻の喜びの声  
テレビよりゼレンスキー大統領の太き声無力な吾も心震わす  
赤や黄の木の葉舞いちる山の道すべってころぶをカナカナ笑う  
逆らいて走ればカーナビ次々と来た道に戻れと指示す  
台風にあえなく落ちたる青かりん実入り半ばの顔のやさしき



菱沼清子	菱沼友江	山口和代	宇都宮和子	碓谷きえ	石田はる江	根本智恵子	幡谷啓子	中根良子	石橋吉生	鶴町文男	高田久子	松田通喜	野口初江
------	------	------	-------	------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	------

みづうみ俳句会

旅の宿松茸椀にめぐりあい  
柿たわわからすの群れに耐えて熟れ  
まだ生きて余生たのしむ秋の雲  
穂を刈りて一日がかりの手打ち蕎麦  
人住まぬ庭を飾りし富有柿

みのり俳句会

栗を剥く紬の母の白寿かな  
草の実はどこでつけて来たのやら  
夜の更けてますます高なる虫の声  
亡夫植えし木犀の香にいやされて  
遠筑波飛機を取り込む翳雲

櫛の会

新涼の空埋めつくしははの声  
缶振って白いドロップころんと秋  
信濃路は終日の雨薄紅葉  
佇めばいつしか日暮れ野紺菊  
秋夕焼看取りし犬のぬくみかな

くるみ俳句会

親鸞のゆかりの古刹紅葉映ゆ  
秋高し千年櫛空を突く  
秋の寺昔なつかしつるべ井戸  
青空や银杏舞ひ散る西念寺  
品格を秘めて山門冬に入る

たまり俳句会

雲去りて松林の上出づる月  
赤い靴のメロディ秋の雨情館  
秋晴れや六角堂に寄せる波  
巨匠も聴きし海鳴り石路の花  
面会の冷えし画面に手を重ね

小美玉川柳会

エロ本を横目に進むセブン哉  
ガムテープ縁の切れ目を補修する  
選に漏れカスミが掛かる私の名  
ロボットが全能となり敵となる  
プーチンの夢破れて世界安堵

三村れい子	長島さか江	榎本喜代子	長島美奈子	佐藤清心	島田清香	白根澤清	立原千代	塚田文江	石田敏江	網代奈津江	矢口富久	岡島禮子	木村小夜子	安彦昭子	小原工ミ	信田菊女	大曾根篁村	島田直	野口文男	鶴町初江	長谷川光男	松田通喜	矢口友子	下重悟史	原富貴子	枝川白子	大盛食堂	梶原平
-------	-------	-------	-------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-------	------	------	------	-------	-----	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	-----